

SHIRAKOBATO

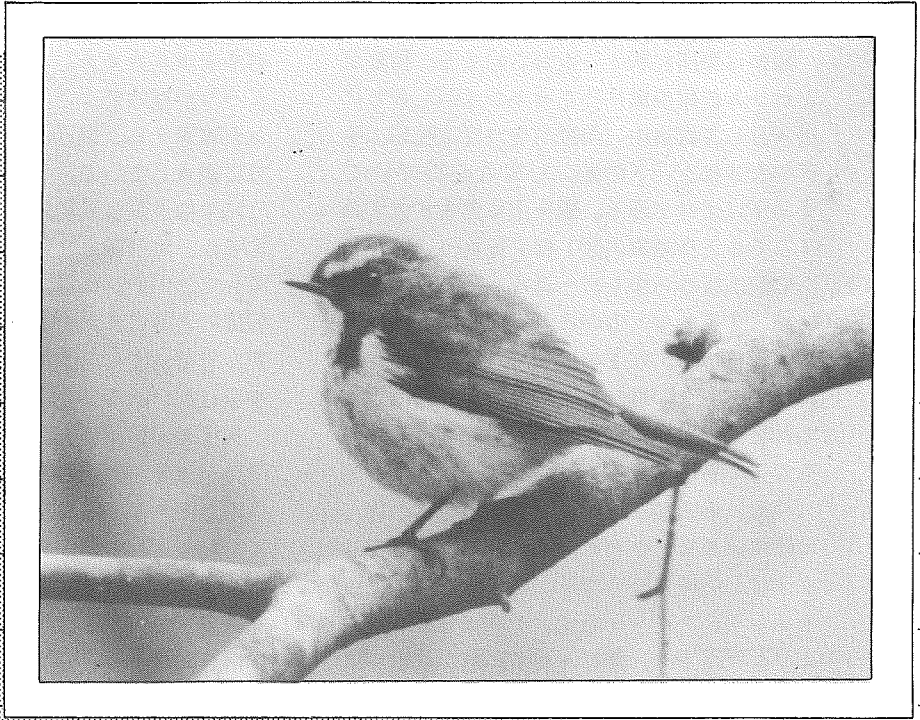
しらこぼと



1988. 5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.48

日本野鳥の会 埼玉県支部

見沼通船堀から差間へ

(浦和市・川口市)

(1)はじめに

見沼通船堀から差間にいたる地域は、見沼田んぼの最南端に位置し、芝川をはさんで東西の通船堀によって見沼代用水の東縁と西縁をつなぎ、さながら南からの開発の波をせき止める要衝となっている。

しかし、この地域にも近年開発の手がのび見沼田んぼの自然環境は急速な変貌を余儀なくされている。国の史跡通船堀から原風景のおもかげを残す差間にかけての探鳥は、歴史と自然、生活と自然を考える散策でもある。

この一帯の魅力は、なんとといっても通船堀を彩る四季の変化と差間の広大なアシ原であるが、武蔵野線東浦和駅から徒歩2、3分で見沼田んぼに入れる手軽さもそのひとつ。

(2)通船堀(西縁)を歩く

観察は東浦和駅ホームから始まる。初夏だとホームの屋根裏にハクセキレイがしきりに出入りして育雛中。階段を登れば改札口の手前の天井にツバメの巣。お客も心得ていてその下はよけて通る。駅を出るとまず広場の「ふるさと歩道案内図」板を見よう。

駅前広場から少し右へ進み、横断歩道を左に渡ってグラウンド方向に直進すれば見沼代用水西縁に出る。左手の民家のイチョウの大木にはムクドリが群れる。初夏の夕暮には近くの神社からアオバズクの鳴声が聞こえる。堀を渡って右へ70メートルほどで見沼通船堀(西縁)の入口。堀側にサクラの並木、田んぼ側にはモモ、ツバキ、モクレン、ジンチョウゲなどの植木がつづく。堀にはコサギ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、イソシギが下り、コジュケイが藪から水場に顔を出す。冬から春にかけてここはアオジが多い。堀を覆うケヤキやヒサカキではヒヨドリやオナガが鳴き騒ぎ、シメ、ツグミが枯枝に憩う。シジュウカラ、ウグイスの動きも活発である。電線に止まるシラコバトをじっくり観察できるのもこのあたり。

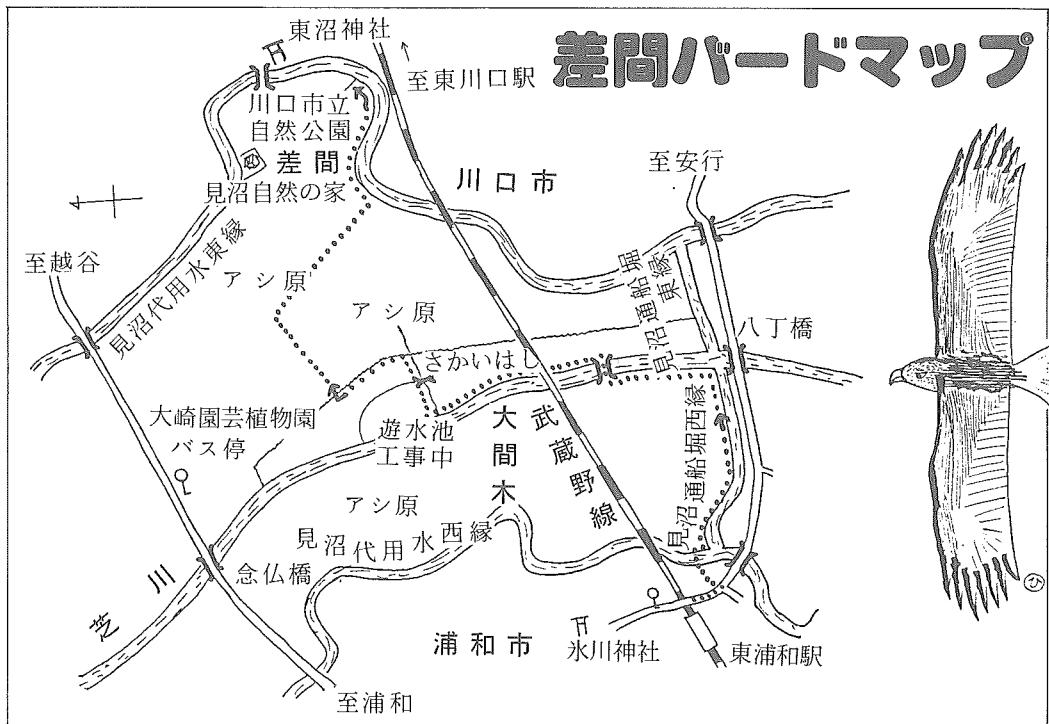
裸のケヤキ、満開のサクラ、新緑から緑陰そして落葉へと通船堀は四季それぞれの表情を見せて移ろう。生活用水のたれ流しやゴミの投げ棄てを止め、カワセミがもどってくる清流をとり返せば、通船堀の魅力はもっと大きくなるだろう。4、5年前までは堀を一直線に飛び抜けるカワセミにしばし息をのんだものだが、一昨年以来出会えないのはさびしい。

(3)芝川沿いに

通船堀西縁を抜けると芝川に出る。出口に公衆便所あり。右に折れ八丁橋下流の水鳥を観察しよう。車に注意して道を横断、芝川の土手に立てば、川の州や岸辺にコサギ、カルガモ、ハクセキレイが見られ、秋から春にかけてはコガモ、オナガガモ、ユリカモメの群れやセグロカモメ、イソシギ、コチドリ、タヒバリが観察できる。また州の草むらではバンが繁殖する。最近ではカワウが飛来し、しきりに潜水している。

八丁橋を渡り通船堀東縁をたどるコースもあるが、見沼田んぼに踏み入るために後もどりして芝川沿いに進んでみよう。前方に田園風景にとけこんだ土橋が見える。ここでは差間へ急ぐあまり周囲の田んぼや上空への注意を忘れないようにしよう。

左手の東浦和駅方面の田んぼは、駅側の約半分が運動公園として埋め立てられ、この一角の水田やアシ原は狭まった。それでもここには毎年4月中旬から5月上旬まで2~30羽のムナグロが飛来する。5月連休のハイキングではここで足を休め、レンゲが咲く田んぼに目を向けよう。夏羽や冬羽のムナグロのはかたシギの姿も見られ、空にはヒバリが囀っている。また早苗の田んぼではヒクイナも観察でき、アシ原のソデで真黒いヒナを見ることがある。グラウンド造成前にはオオジュリンが多く、コミミズク、チュウシャクシギ、タゲリも飛来した。ノビタキは今も来て柵に止



まる。

橋を渡り、武蔵野線のガードへ向け川沿いに歩こう。この地点で私は忘れもしない82年10月3日午前9時、36羽のサシバが上空高く旋回しながら南下するのを目撃した。

ガードをくぐると広い田んぼが開け、アシ原が遠くつづく。初夏には差間からカッコウが上空を鳴き渡り、近くの高圧線に止って鳴きつづける。芝川にはカワウやカイツブリ。

(4) アシ原へ

遊水池工事現場の手前の水路で右折する。真正面のアシ原が差間にのびている。水路に沿ってクヌギやハンノキが並ぶ。4月にはカシラダカが陽気に誘われてクヌギの枝に群がり一斉に囀り、渡りの支度を始める。5月にはもうコムクドリの群れがこの並木を訪れる。

水路に懸る「さかいばし」でしばし立ち止まり、カワセミを探そう。ある冬、ここでオオタカが空中でドバトを襲ったことがある。チョウゲンボウ、コミミズクにも注意。橋を渡れば一列にトネリコの並木。見沼代用水東縁へは橋をまたいで水路の反対側の道をとるのが近道だが、ここではアシ原に身を潜めるため水路沿いに直進しよう。田んぼにアマサギがいる。

差間バードマップ

アシ原につき当り左折、大崎事業所方向へ進む。右手は一面のアシ原。オオジュリン、ホオジロ、アオジ、モズが多く、初夏にはオオヨシキリの楽園となる。朝夕にはヒクイナの声も楽しめる。アシ原を切り開いてつくった道を右へひと回りして見沼代用水東縁へ出る。近くにラジコン飛行機専用用地なるものがあるが、午前中なら静かな自然空間をかき乱す野蛮な爆音を免がれるだろう。キジがよく鳴く。

(5) 代用水東縁で

代用水東縁に出ると残された斜面林にも注意しよう。春はセンダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、秋はエゾビタキ、コサメビタキが渡って来る。ノスリ、チョウゲンボウ、コミミズク、トラフズクなどの猛禽が越冬する自然がこんなに身近にあるのに驚く。しかしこの大規模緑地の将来は決して楽観できない。運動公園、高層老人マンション、調節池等、東西の周辺とそのど真中から見沼田んぼの自然は大きな岐路に立たされている。東沼神社や見沼自然の家で休憩しながら、野鳥と自然保護について考えてみたい。

帰りは、代用水沿いに歩き大崎園芸植物園バス停（浦和・越谷線）に出るのが便利。

(為貞 貞人)

1987/88年冬の荒川中流におけるコハクチョウの越冬

諏訪 隆久 (熊谷市)

ここ数年、荒川中流の大麻生・明戸地区でのコハクチョウの越冬が定着してきました。今シーズンは3月20日を終認に無事に北国へ旅立って行きましたので、これを報告します。

大麻生・明戸地区へコハクチョウが初めて姿を見せたのは1980年です。その年に11羽の群れが飛来しました(今井、1986)。以降毎年、徐々に数を増やしながら、1986年3月には54羽(小荷田、1986)に達し今年は30羽以上ものコハクチョウが、この地区で冬を越しました。

12月3日に地図のB地点(明戸堰上流)にて初認されました。12月中には、なかなか数が増えませんでした。暖冬で、本格的な寒さにならなかったためだと思います。

大麻生・明戸地区のコハクチョウは、日々場所を変えながら越冬します。地図上でA・B・Cの三地点で観察されます。しかし、この三カ所を探しても見あたらない時があるので、他の場所にいることも十分に考えられます。

どの場所も、コハクチョウにとって一長一短があります。環境は、B地点がベストだと思います。しかし、明戸堰付近は、非常に釣り人が多く、さらに上流は厳寒期には猟区になります。従って北国から飛来したコハクチョウは、一旦はB地点にいますが、12月末からは日々移動するようになります。3月になり禁猟になると再びB地点で羽を休めるようになります。

ここは、東京から最も近い越冬地の一つで

す。この地区の破壊されかけている自然が、コハクチョウの越冬により、野鳥や自然を愛する人に有名になり、そのことが、自然保護の力の一つになればと思います。

＜参考文献＞

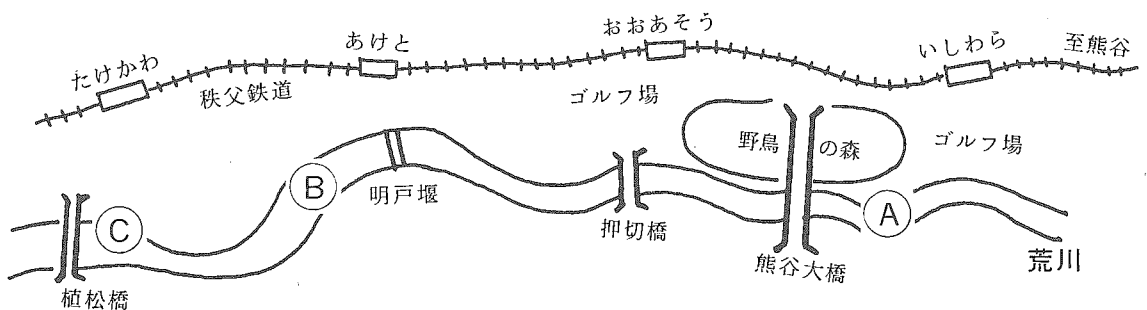
今井明巨 1986 コハクチョウ 大里郡川本町明戸 しらこぼと No.30, 2 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

小荷田行男 1986 1985/86年度における関東地方のコハクチョウ・ガン越冬前線の南下 雁のたより No.27, 18 雁を保護する会 仙台

表 1987/88年冬の荒川中流におけるコハクチョウの越冬記録

月 日	場 所	数	備 考
12月3日	明戸堰 B	3	渡辺 敦
13日	"	4	
19日	"	4	
31日	"	21	前日までは4羽だったと釣り人の話
1月4日	熊谷大橋 A	20前後	
10日	B	30	
15日	A	24	
31日	植松橋 C	32	姿が見えなかったこのころから阪東大橋は0羽になっていたよう。
2月20日	"	32	
3月13日	B	30	
20日	"	36	終認

図 荒川中流におけるコハクチョウの越冬場所





会員の声

昭和62年の探鳥会と俳句 諸徳寺六十五 (大宮市)

62年は旧臘から風邪で、恒例の「ほろ酔探鳥会」も参加出来ず、変形ヒドリ?にもお目に掛れないようなスタートでしたが、その後の参加の折々に出来た拙句を、紙面をお借りして並べ、想出を綴ってみたいと思います。

“沢音を離れ来てより鶯のこゑ” (ウソ)

“雪解けの沢音に酔ふ大猿子” (オオマシコ)

“灯一つの小瀬林道に鶉の聲” (ヌエはトラ)
ツグミの異名

年初の参加が軽井沢で、こゝは3月、5月も参加しました。温泉に泊りがけの会員も居りました。カラ類に気をとられて足をとられた方もいたようです。珍しい鳥が多く、いつ来ても結構なところですよ。

“下枝に頬白黙す二月かな” (ホオジロ)

二月は蓮田、高木地区、三室と参加。寒い季節ですが、探鳥には良い月です。水辺も、林も良く見えるので、思わぬ発見もあります。

“春浅し青鴉の鋭聲蔽出せず” (アオジ)

“萌季を小げらの叩く急調子” (コゲラ)

立春過ぎ、小室、鳩山の時でした。

“中尺鷓田植機過ぎし田を歩む” (チュウシキ)
ヤクシギ

五月の大久保農耕地はいそがしい。コサギの群、ムナグロ、タカブ、キアシ、タシギなど、など。

“上昇のこゑの雪加や梅雨ぐもり” (セッカ)

こふいふこともあります。これも発見。

“瀬のひかり羽裏にうけて小鯔刺” (コアジ)
サシ

明戸の真夏、堰のところですよ。オオタカも出ましたっけ。

“冷やかや満ちくる潮の鷺たたす” (アオ)
サキ

八月も末の谷津干潟。シギ類の勉強室。暑い日も、大雨の日もありましたが、いつも大勢のシギ類やシオマネキが迎えてくれます。

“野鶉の瞳くりくり秋の雲” (ノビタキ)

“野鶉や友におくれし花野みち” (ノビタキ)

阪東大橋の秋です。カワセミ、ウズラ、猛禽も常連。

“風にたち葦に沈める頭高” (カシラダカ)



愈々風も冷たくなり、冬季を迎えるわけで、この後は省略しますが、初冬の柳瀬川、浦和鷺山記念公園コース、坂戸高麗川コース、そして四季の変化を味わへる三室コース。勉強になります。そして一緒に載ける良き友達。生涯学習の場として、楽しい探鳥を続けたいものです。

ポーズをとってくれたキジ

小林 広幸 (長野県佐久市)

昨年2月、自宅前の畑で雄が雌のそばでさかんにディスプレイを展開。

そのとき思わぬ邪魔が入ったのです。前方の道路を犬を連れた人が歩いてくるのでした。

雌は一目散に隣家の植込みに隠れ、雄は雌をかばうかのごとく胸を張り、警戒をしていました。この雄キジ君、堂々としたポーズをとってくれました。



野鳥情報

- カンムリカイツブリ (夏羽) ◇2月29日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(北川慎一)。
- カイツブリ ◇3月9日、浦和市の白幡沼で巣づくりの為のなわばりあらそいが、さかんに行なわれる。3月12日、2羽が、巣づくり行動をする(海老原美夫)。
- カワウ ◇3月6日、本庄市の阪東大橋上空を通過し、下流の深谷市の流域におりる。その数約250羽(富岡六郎)。
- コサギ (夏羽) ◇2月20日、川本町明戸の明戸堰で1羽(諏訪隆久)。
- アオサギ ◇3月19日、浦和市秋ヶ瀬の鴨川放水路上空で2羽(星崎杉彦)。
- ムラサキサギ? ◇3月7日午後2時40分、アオサギ7羽と共にいた。アオサギより足が短く、首が細い。全体的に茶色っぽい。飛翔時、両翼に半円の紋らしきものが、かすかに見えたことから、ムラサキサギと思われる(町田好一郎)。
- クロツラヘラサギ (終認) ◇3月15日午後2時、本庄市の阪東大橋上流約4キロ、烏川の河原でコサギの群れ中に居た。その日以降は確認されず(林 滋)。
- コハクチョウ ◇3月20日、川本町明戸の荒川で36羽。今冬の最高数を記録する(諏訪隆久)。
- オシドリ ◇3月20日、越生町成瀬の高橋上空で♂♀各1羽(佐藤晶人)。
- カルガモ (白化) ◇3月11日、本庄市の阪東大橋下流でカルガモの群れ中に1羽。全体的に淡い灰色で、くちばしと足の色は、普通のカルガモと同じ。眼は、赤みがかっている(北川慎一)。
- ハイタカ ◇3月13日、鴻巣市大間1丁目上空で1羽(榎本みち子)。
- オオタカ ◇3月19日、浦和市秋ヶ瀬の鴨川

- 放水路上空で1羽(星崎杉彦)。
- ノスリ ◇2月27日、北本市石戸宿の農事試験場跡地で1羽。カラスにモビングされる。(北川慎一)。◇3月13日、所沢市の航空記念公園上空で1羽(石井清澄)。
- ハヤブサ ◇3月5日午後4時、本庄市の阪東大橋下流の利根川上空で2羽。カラスを追う(町田好一郎)。
- キジ ◇3月15日午後5時40分、本庄市の阪東大橋下流のアシ原より♂♀のペア飛び上る(町田好一郎)。
- クイナ ◇2月23日、富士見市の柳瀬川左岸のアシ原で1羽(田中富夫)。◇3月8日、浦和市の白幡沼で1羽。泥中のザリガニらしき餌をくわえ出し、水で洗ってから、まる飲みする。3月12日、2羽が沼の対岸同士で鳴きかわす(海老原美夫)。
- イカルチドリ ◇3月8日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(町田好一郎)。
- タゲリ ◇2月27日、北本市石戸宿で2羽(北川慎一)。
- イソシギ ◇3月8日午後3時、本庄市の阪東大橋下流で約70羽(町田好一郎)。
- オグロシギ ◇3月23日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で1羽(福井 亘)。
- セグロカモメ ◇3月29日午前9時30分、志木市の柳瀬川高橋上流で1羽(藤原寛治)。
- シラコバト ◇3月17日、所沢市坂之下の所沢インターチェンジ付近で1羽(石井清澄)。
- コミミズク ◇4月1日、浦和市の秋ヶ瀬橋付近で1羽(近藤 崇)。
- カワセミ ◇3月19日、浦和市秋ヶ瀬の鴨川放水路で1羽(星崎杉彦)。◇3月20日、越生町成瀬の越辺川で♂♀各1羽(佐藤晶人)。◇3月20日、本庄市の阪東大橋下流で2羽。求愛給餌を観察する(町田好一郎)。
- ビンズイ ◇1月16日、浦和市皇山町の自宅近くで、さえずる。その後、2月になってからも2回、さえずりを聞く(星崎杉彦)。
- ヒレンジャク ◇3月20日、越谷市増林で1羽(山部直喜)。◇3月21日、春日部市中野で12羽(石川敏男)。
- ミソサザイ ◇3月11日、寄居町の鍾撞堂山でさえずる(北川慎一)。

ごめんなさいコーナー

前月号(No.47)6ページ野鳥情報、カラアカハラではなくアカハラでした。訂正し、お詫びいたします。

トラツグミ ◇2月27日、北本市石戸宿の農事試験場跡地で1羽(北川慎一)。

アカハラ ◇3月23日午後2時、浦和市秋ヶ瀬の子供の森でさえずる(福井 亘)。

シロハラ ◇2月29日、朝霞市東円寺で1羽(田中富夫)。◇3月11日、秩父市の羊山公園で1羽(北川慎一)。◇3月19日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で2羽(星崎 杉彦)。

ツバメ ◇3月19日、上福岡市で1羽(石井清澄)。◇3月19日午後4時、桶川市若宮の自宅のベランダの前をスイスイと(立岩恒久)。◇3月20日、毛呂山町で1羽(諏訪隆久、登坂久雄)。◇3月20日、所沢市小手指で1羽(大塚隆広)。◇3月20日、狭山湖で1羽(大塚隆広)。◇3月20日、鴻巣駅前で1羽(榎本みち子)。◇3月20日、富士見市の柳瀬川で3羽(藤原寛治)。◇3月20日、浦和市三室で1羽(楠見邦博)。◇3月20日、浦和市中尾で1羽(海老原教子)。◇3月20日、浦和市本太で3羽(小荷田行男)。◇3月20日、本庄市の阪東大橋付近で1羽(町田好一郎)。◇3月20日、浦和市大谷口で1羽(近藤 崇)。◇3月23日、春日部市増田新田で2羽(藤野富代)。◇3月24日、越谷市増林で1羽(神場真文)。◇3月25日、浦和市別所で1羽(佐藤晶人)。

イワツバメ ◇3月14日、秩父市内で5~6羽(宮崎章次)。◇3月19日、坂戸市の高麗川で1羽(大塚隆広)。

ウグイス(初鳴き) ◇3月1日、与野市下落合の自宅近くでさえずる(石井 智)。◇3月1日、浦和市岸町5丁目で(海老原美夫)。◇3月14日、秩父市内で(宮崎章次)。◇3月17日、浦和市神明2丁目で(上野明子)。◇3月21日、桶川市若宮の

表紙の写真

自宅の庭の植えこみで(立岩恒久)。

コガラ ◇3月4日、熊谷市大麻生野鳥の森東部で1羽(渡辺 敦)。

ミヤマホオジロ ◇3月4日、熊谷市大麻生野鳥の森東部で♂2羽♀6羽(渡辺 敦)。◇3月6日、川本町本田で♂2羽(小淵健二)。

クロジ ◇3月11日、寄居町の鍾撞堂山で♂の若鳥1羽(北川慎一)。

アトリ ◇4月1日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で3羽(近藤 崇)。

マヒワ ◇3月11日、秩父市で羊山公園で3羽(北川慎一)。◇4月1日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で10羽(近藤 崇)。

ウソ ◇3月20日、越生町越生で♀1羽(佐藤晶人)。

シメ ◇3月15日、浦和市の常盤公園で1羽(藤野富代)。

ハシボソガラス ◇3月1日、浦和高砂の県庁付近上空を巣材をくわえて飛ぶ(海老原美夫)。

クロジョウビタキ ◇1月17日から越冬していた雌1羽3月30日終認、浦和市中尾(草間和子)。=詳細前月号。

※本種雌は、例えばシロビタイジョウビタキ雌などと判別する明瞭な識別点がなく同定が難しいため、3月16日の本部野鳥記録委員会においては、「この個体はクロジョウビタキ雌の可能性が高い」という表現にとどまったが、色調・大きさなどの形態的特徴、寝ぐらの環境的要素などから判断して、クロジョウビタキ雌という判断は妥当なものと思われる(海老原美夫)。

ルリビタキ(ヒタキ科ツグミ亜科)

東松山の森林公園。冬の日だまりの中に舞う青い宝石。その愛らしい、つぶらな瞳が鋭いものになる。ごめんごめん近付きすぎて。それも、君が美しいからだよ。

亜高山針葉樹林で繁殖するが、冬になると

平地にも下りてくる。スズメ大の青い鳥で、脇のオレンジ色が特徴。冬のイメージがあるが、夏聞かれる、明るいさえずりもなかなかのもの。富士山のコメツガの頂で歌う姿が思い出される。(写真と文・北川慎一)



5月8日の探鳥会（大麻生、高麗川、秋ヶ瀬、黒浜沼）は、64年全国野鳥保護のつどいキャンペーンシリーズの一環として、埼玉県と共催で行なわれます。

熊谷市・大麻生探鳥会

期日：5月8日（日） BW行事
 集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
 交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着

解散：午後1時ごろ
 担当：鈴木（忠）、榎本、乗田、渡辺（敦）、諏訪、岡安、赤瀬

見どころ：川面にまばゆい初夏の光（I）。
 光輝く水辺に一番似合うのが、コアジサン。彩り添えるのは夏羽のシギ・チ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：5月8日（日） BW行事
 集合：午前9時 東武越生線川角駅前
 交通：川越線大宮7：35発→川越7：54着、東武東上線乗換え急行8：00発（特急8：20発も可）→坂戸8：15着、越生線乗換え8：35発→川角8：45着

解散：午後2時ごろ
 担当：藤原、楠見、森本、長谷、黒田、横山、宮内

見どころ：川面にまばゆい初夏の光（II）
 光一杯の清流はカワセミの最高の舞台。
 潑刺とした繁殖期の風景もお楽しみ。

5月。華麗な季節。勢揃いした夏鳥、旅を急ぐシギ・チ、留鳥達もみんな初夏の装いで、野外は一番の賑わい。バードウィークを軸に探鳥会も一層充実。お揃いでお出かけを。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡などです。

参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

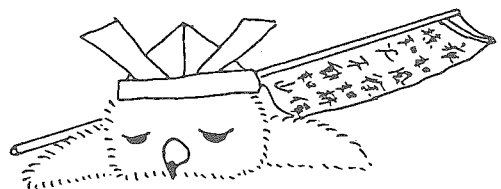
期日：5月8日（日） BW行事
 集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー（その後現地までバスを利用）
 解散：午後1時ごろ
 担当：福井、海老原、小荷田、草間、渡辺（周）、金井、手塚

見どころ：目のさめるような夏羽のムナグロの群。腹黒い鳥だって、誰ですか。そういう人にはコムドリは見せません。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月8日（日） BW行事
 集合：午前8時45分 東北本線蓮田駅東口（その後現地までバス利用）
 交通：東北本線大宮8：31発→蓮田8：42着
 解散：午後1時ごろ
 担当：中島、松井、石川、山部、木村、浅田、小林

見どころ：詐欺師達の溜り場ではなくて、サギ達の生活の場がコロニーなのであります。初夏の光の中色とりどりに……。



栃木県・箒川と千本松探鳥会

期日：5月14日（土）

集合：午前7時10分 大宮駅9番線ホーム北側階段下

交通：東北本線大宮7：16発快速ラビットに乗車、宇都宮8：19着、同駅8：21発に乗継ぎ、野崎8：56着、下車。移動にバスを利用します。

解散：千本松にて午後4時過ぎ

担当：中島、楠見

見どころ：チョウゲンボウ団地の育児風景。岩穴の集団生活を遠くから見守りましょう。午後からは千本松で夏の小鳥を。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月15日（日） BW行事

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館（今月より参加費が必要ですよ）

担当：楠見、福井、渡辺（周）、乗田、手塚

見どころ：新緑の見沼に響く声は、旅路の夏の小鳥か涼やかなシギ・チ、それとも渡って来たばかりのカッコウか。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：5月15日（日） BW行事

集合：午前9時 本庄駅北口（その後現地までバス利用）

交通：高崎線大宮7：44発→熊谷8：26発→本庄8：49着

解散：午後1時ごろ

担当：北川、榎本、萩原、林、庄田、新井、小淵

見どころ：川面にまばゆい初夏の光（Ⅲ）。心も踊る繁殖期の河原。コアジサシ、チドリ類に、○バ○○ド○はどうか。

長野県・軽井沢探鳥会

期日：5月21日（土）夜～5月22日（日）

集合：21日午後10時30分 上野駅一階中央広場 ジャイアントパンダ像前

交通：信越本線急行妙高上野23：58発→大宮0：26発→熊谷1：03発→軽井沢2：58着、下車。途中駅からの乗車も可。軽井沢駅からタクシー利用。

食事：朝食及び昼食持参

解散：現地にて22日午後2時ごろ

担当：中島、楠見

見どころ：目一杯、耳一杯、夏鳥一杯。かすかに空が白み始める頃、林道にあふれる歌声は……。明るくなった木々の間から目を射る鮮烈な光は……。華麗なオールスターを楽しみに、今年も足踏えを充分にしてください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月28日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：浦和市立コミュニティーセンター2階第2講座室（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道を左折し約600m右側）

案内：初夏の風も袋づめの後が一番爽やか?!

野鳥写真クラブ定例会

とき：5月28日（土） 午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：あの日の感動を分かち合うために……。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：5月29日（日）

集合：午前8時20分 高崎線上尾駅西口 または午前9時 丸山公園北駐車場（上尾駅の場合、その後バス利用）

交通：高崎線大宮7：59発→上尾8：08着 / 高崎線熊谷7：47発→上尾8：17着

解散：午後1時ごろ

担当：乗田、赤瀬、榎本、岡安、楠見

見どころ：緑の風、青い空、それがカワセミの色。エメラルドグリーンもコバルトブルーもやはり初夏が一番似合う色。

6月5日（日） 荒川村・日野溪谷探鳥会

6月19日（日） 浦和市・三室地区探鳥会

なお、5月22～23日の両神山探鳥会、6月11～12日の奥日光探鳥会の参加者を募集中です。詳細は4月号を御覧下さい。

（カット＝鈴木 高士）

行事報告

2月21日(日) 浦和市 三室地区

人 42人 天気 晴 鳥 ゴイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ イカルチドリ タゲリ ハマシギ タカブシギ タシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(32種) 斜面林を下りて、芝川に向かう途中の畑にタゲリがいた。今年少なかったのがじっくり見られて皆大喜び。ヒバリは天空高くさえずり、カモはのんびり日向ぼっこ、春の訪れが感じられた。

2月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、草間和子、森 静子、小林恒雄、小林芳江、近藤 崇、手塚正義、登坂久雄、林 滋、藤野富代、吉田二三子、渡辺 敦、渡辺孝章(15人)。探鳥会とは一味違った会員の交流の場です。あなたも参加しませんか。

2月27日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 15人 作品発表した人 4人



タゲリ (撮影・登坂久雄)

2月28日(日) 大宮市 高木地区

人 11人 天気 晴 鳥 コサギ コガモ タゲリ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(25種) 前日に雪が降ってドッキリ。担当リーダーは、雨男ならぬ雪男と言われそうな予感。なにせ2年前は大雪で中止、去年は出張で出られなかったらすばらしいお天気、そして今年は……。でもなんとか天気も回復。この1年で環境がかなり変わったせいか、暖冬のせいか、期待したケリは見られなかったが、カシラダカやアオジ、ジョウビタキなどをじっくりのんびり楽しんだ。

2月28日(日) 新座市 平林寺

人 30人 天気 曇 鳥 コガモ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(24種) 雪の降った後の寒い日であったが、多数の人が参加してくれた。門を入ってすぐに、ルリビタキが現われ大騒ぎ。十分に楽しんでから朝の挨拶をしたが、体はこちらを向いていても心は鳥の方に向いていた。ほかにはアオゲラ、ビンズイなどが皆を楽しませてくれた。

3月6日(日) 長野県 軽井沢

人 37人 天気 晴 鳥 マガモ カルガモ トビ ヤマドリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ

リ ヒレンジャク カワガラス ミソサザイ
ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒ
ガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カ
ワラヒワ ベニマシコ ウソ イカル シメ
ズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (36種) 長倉神社
には期待したレンジャクが見られなかったが、
星野温泉近くのヤドリギにヒレンジャク7~
8羽がいて30分位は観察でき、みんな感激。
運の良い人はヤマドリ雄も見られた。残念な
がらハギマシコは現われなかったが、帰りの
電車では、見られた鳥の話を肴にみんなでカ
ンパイ。

3月12日(土) 菅生沼探鳥会は中止

3月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 34人 天気 晴 鳥 カイツブリ
ダイサギ コサギ コハクチョウ マガモ
コガモ オナガガモ ノスリ ハマシギ イ
ソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハク
セキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイ
ス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (33種) うららかな日和、ヒバリ、
ウグイス、シジュウカラのさえずり、満開の
梅、モンキチョウ…あふれる春の息吹を満喫。
明戸の堰では間もなく北に帰るコハクチョウ

やジョウビタキにお別れの挨拶。それにして
も、久々に訪れた大麻生の変わり様は…。

3月13日(日) 浦和市 三室地区

人 45人 天気 晴 鳥 コサギ コガ
モ オナガガモ コジュケイ タカブシギ
イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト
カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハ
クセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒ
ヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグ
イス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハ
シボソガラス ハシブトガラス (30種) 62年
度の郷土博物館との共催行事も最終回。まだ
練習中のつたないウグイスのさえずりに春の
よろこびを感じた。冬の間は、なりをひそめ
ていたコジュケイもそろそろ動きを見せる。
4月になれば、この日見られた鳥のいくつか
は旅立っているだろう。季節は確実にめぐる。

3月20日(日) 浦和市 さぎ山記念公園

人 35人 天気 曇 鳥 カワウ コサ
ギ コジュケイ キジ キジバト ヒバリ
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シ
ジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (25種) お目当てのノスリやタゲリ
は残念ながら現われなかったが、暖かな1日
をゆっくり楽しんだ。

参加者の声

軽井沢探鳥会

乗田 実(上尾市)

列車から降りると朝の空気がひんやりと冷
たく顔をさす。遠くに真白に雪化粧をした浅
間山が美しく映え、参加者を迎えてくれる。
「おはようございます」と挨拶を交わしあう
仲間たち。ひさしぶりに逢えたらうれしさ。そ
んな雰囲気では探鳥会が始まりました。最初に
現われたのはお尻の真っ赤なアカゲラ君、本
日ハイライトのヒレンジャク様の出現に大い

に感激。ピンク色のベニマシコ嬢。ダンディ
ーのゴジュウカラ殿。潜水が得意なカワガラ
ス。ホテルのロビーではミニ探鳥会が始まる
など今日の探鳥会はそれは大盛況でした。ひ
さしぶりの感動を味わうことができました。
もうすぐ春が駆け足でやってくる。山々の雪
もとけ、水もぬるみ、木々が青い芽をふき始
める5月の軽井沢へ行ってみたくと心はず
ませて。車中ひさしぶりの感動を思い出しな
がら冷たいビールで乾杯しました。皆さんお
世話になりました。ありがとう。

連絡帳



夏鳥分布調査にご協力ください

5月10日から7月10日までの間、あなたのフィールドで観察された鳥の名前とおおよその数をメモしておいてください。

6月号に同封する料金受取人払いのはがきを書いてポストにポン。もうあなたは立派な調査員です。

はがきを積み重ねて、埼玉の夏鳥の分布の様子を明らかにします。

メッシュ地図と調査票による調査法もあります。やってみたい方は研究部までどうぞ。

秩父でパネル展示

秩父愛鳥会と埼玉県共催のバードウィーク展が開かれ、当支部も協力して野鳥写真パネル30点を出品します。

日時：5月11日～15日（10時～18時）

会場：地場産センター2階（秩父駅ビル）

埼玉県主催野鳥生態写真コンクール

今年は、来年の「全国野鳥保護のつどい」を記念して年2回募集します。

募集期間 前期 4月20日～6月30日

後期：10月1日～2月15日

くわしくは、電話 0488-24-2111

内線2424・県自然保護課へ。

ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

川口由美子 2,000円、豊田隆 4,100円、馬場友里恵 10,000円、肥留間ふみ子 4,000円、役員リーダー懇親会 1,263円。

題字『しらこぼと』＝山下静一（財）日本野鳥の会会長、イラスト見出し＝鷹尾正済（p5, 6, 12, 表紙デザインも）・鈴木加代子（p8）・渡辺周司（p10）

●次の方々からは支部賛助会費（通常の会費との差額分8,000円）をいただきました。

大武昭雄、笠井実。

（いずれも50音順、敬称略）

会員数は

4月20日現在861人です。

活動報告

3月4日 熊谷駅ビルA Z、アイリスメガネの各担当者と、協力体制について話し合い（熊谷にて、海老原）。

3月12日～13日 関東ブロック会議（普及事業について 支部情報の交換・その他、群馬県伊香保温泉にて、海老原と北川出席）。

3月20日 役員会議（司会・榎本秀和、各部の報告、事業部の体制、探鳥会リーダーの体制、新年度役員の体制、その他）。

3月23日 『しらこぼと』4月号校正（大武、西城戸、森本）。

4月4日 クロジョウビタキに関する情報を新聞社に連絡。5日、埼玉・読売各新聞に掲載。

4月5日 NHK浦和放送局で、探鳥会案内放送について打ち合わせ。9日、『くらしの情報』で放送。



やっと編集後記が書けるところまでこぎつけた。今日はもう4月19日。締め切り日はとくに過ぎていて、これを書き終えて入稿だ。しかし、締め切りを過ぎての入稿はなんとなく気が重い。

この5月号がお手許に届くころ、夏鳥たちがぞくぞくとやってきています。去年越谷では、5月6日にアオバズク二番を観察することができました。注意、注意。（山部直喜）

『しらこぼと』 1988年5月号（第48号）

定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦

編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 0488（32）4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）